

# これがオススメ！ 読み聞かせ本

低学年向き

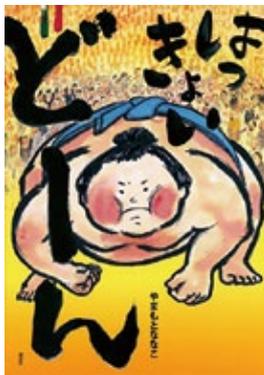
学習指導要領で読み聞かせがすすめられて、読み聞かせについてのたくさんの本が出版されています。また、ブックリストもたくさん出ていますが、さて実際に子どもたちに読もうと思うと、どの本がいいのか、どうやって読んであげたらいいのか、困ってしまいます。「これなら楽しく読み聞かせができるよ」という本と読み方を紹介しましょう。

もうすぐ大相撲の三月場所が始まります。テレビの中継を観ると「巨人・大鵬・卵焼き」という言葉と、相撲好きだった祖父を思い出します。今年は十九年ぶりに日本出身の横綱が誕生しました。日本人力士のますますの活躍に期待します。

「日本の伝統文化」を考える時、相撲も忘れてはいけない文化のひとつではないでしょうか。

一年生のクラスに「おはようございます」と言いながら入ると、目をキラキラさせた子どもたちが「あっ、お相撲さんだ」「はっけよいだ」。私の手にあった本の表紙をすぐに見つけ、うれしそうに言う声。いつも先生が読み聞かせをしているクラスの反応です。私の心がぽっと温かくなりました。

相撲を観たことがある子どもはクラスの半分位。そこで、弱い



はっきよい どーん  
やまもとななこ / 作  
(講談社)

力士は横綱と対戦できないことを教えてから、読み始めました。アンコ型力士小結が初めて横綱に挑みます。それも優勝を懸けての一番。ページをめくるとそこに登場した横綱に子どもたちは「エー」とビックリ顔。ページからはみ出した大きな体。白黒なのでいつもの絵本より迫力満点。名前も強そう。

参加型の手法を取り入れて、私が読んだ「まけるもんか」という言葉を全員で言います。みんな、対戦する気持ちになり、絵本に集中していきます。

読み終わって裏表紙を見せると、またまたみんなの笑顔。そこには、後ろから見たお相撲さんの姿が描かれています。

決まり手八十二手が紹介されていますので、相撲を知るきっかけにもなる一冊だと思います。どのクラスでも楽しめる本です。